

媒体名	化学工業日報
掲載日	2004. 9. 14

世界初のポリエス系

接着性樹脂

分子中への極性基導入で実現

他素材との積層容易に

三菱化学

三聚化学は、これまで不可能とされた高ポリエステル系の接着性樹脂を開発することに世界で初めて成

層層に使用えば其押出によるポリエステル基材のハイバリアフィルム・シートを表現できる。

功した。新規の高機能エラストマーで、同材質であるポリエチレン系樹脂との接着性に優れる。ポリエチレン分子構造中に極性基を導入するなどの工夫で、従来は難しかった化学結合による安定的な接着を可能とした。他、素材との多層・積層化などが容易となり、ポリエチレンの需要分野を大きく広げる可能性が高い。同社では、機能化学セグメントのコア事業である機能性樹脂の戦略商品と位置付け、食品・飲料分野を中心に用途開発を進めて新規市場の創出につなげていく考え。

三、化学が關與したのは接着性樹脂「ポリマロイ・A.P.」主としてポリエステルと他の極性材料を接合するのに使つ。接着性樹脂は、これまではポリオレフィン系しか存在せず、ポリエステルに対しては接着性を發現できなかった。

例えば、ポリアセフィ
ルムの場合、従来は基材
とポリア層の間の接着層
に接着性樹脂を使用して
つくっているが、相溶性
の問題から基材はポリア
ロレン（PAA）などが
中心となっている。ポリ
エステル基材のものとし
ては、ラミネートなどで

物理的に貼る付ける方法
もあるが、安定性などでは
懸念があるのが実情。
しかしプリマロイーA
Pは、ポリエステルとナ
イロン、エチレンビニル
アルコール共重合樹脂
(EVOH)、金属などと
双方に強固で安定的な接
着性を実現するため、接

大きく拡大するものとみられる。

撥水性樹脂素材そのものをポリエステル系としたことで、ポリエステルとの相溶性の高さを確保した。また、ポリエステルは極性材料のため極性がしにくく、他の極性材との接着に難があった。

めであり、年内にも採用された製品が販売開始される見通し。食品・飲料料用の関連を中心に、新規包装材料用接着性樹脂としての需要開拓を加速する。

程度を創出できるといっている。さらには既存の接着力樹脂などとの組み合わせで市場拡大を狙うほか、接着性樹脂としてではなく、建築材での成形は、樹脂改質材用、樹脂用途、樹脂改質材用

途などでも応用開発を進めていく計画。また従来は不可能だったポリエステルに官能基を導入できるといふ今回の技術に応用し、ポリエステルに多様な機能を付与していくことも考えている。

三菱化学では、市場志向型の製品開発、技術サポート重視の事業運営で、熱可塑性エラストマーや接着性樹脂からなる機能性樹脂事業の強化を進めている。来年度から開始する新規経営計画の中でも、機能性樹脂事業を大きく拡大することを目指すと定。